

## ご 挨拶

### 第7回日本動機づけ面接協会年次大会の開催にあたって

(株)野村総合研究所 産業医  
東京都済生会中央病院 糖尿病・内分泌内科  
村田 千里

本日は年度末のお忙しい中、日本動機づけ面接協会（JAMI）第7回大会にご参加いただきありがとうございます。

今年の大会には動機づけ面接の世界的な権威であり、特にグループMI・依存症・健康科学を専門とする、バージニア大学 Karen Ingersoll 教授が招聘されています。2014年10月アトランタでのTNTで私はKarenがメイントレーナーのクラスにいました。寛容さ・多くの是認・ウィットにあふれた3日間でした。今回日本に居ながらにして彼女の講義を受けられるのはなんと贅沢なことなのだろうと思います。

Karen Ingersoll 教授のご講演については、JAMI大会をはさんで2つのワークショップが予定されています。本大会では午前基調講演「あれもこれも変えることを狙った動機づけ面接：妊娠中のアルコール使用に対する介入例」があります。日本からは女性のアルコール依存に尽力されている岩原千絵先生（久里浜医療センター）のご講演をお願いいたしました。午前中は動機づけ面接の基本に立ち戻り、皆様にアルコール依存症についての見聞を広めていただきたいと思います。

午後は公募演題が中心になります。精神科（今井淳司先生）・児童福祉（三瓶舞紀子先生・高橋 育絵先生）・薬剤師（富永佳子先生）・小児科（坂東賢二先生）と、各分野から広く応募いただきました。加えて最近増えてきている「製薬企業とのコラボによるMIの勉強」について、大阪市立大学大学院発達小児医学教室 川村智行先生とJAMIの理事である原井宏明先生に意見発表をお願いいたしました。

年に1回のJAMI大会です。年代・地域・思想を超えた異業種交流もお楽しみください。

明日からは年度が新しくなり、あと1ヶ月ほどで平成も終わります。5年先の未来の日本でMIはどのような使われ方をしていることでしょうか。MIは更に進化を続けているのでしょうか。今日の会が明日からの皆様の仕事・仲間とのコミュニケーションに役立つことを願っております。

## プログラム

### 午前の部 10:00～12:00

10:00 大会長 挨拶

10:10 keynote プレゼンテーション

「あれもこれも変えることを狙った動機づけ面接：妊娠中のアルコール使用に対する介入例」

カレン・インゲルソル（バージニア大学 精神医学・神経行動科学 教授

Board of Directors of the Motivational Interviewing Network of Trainers)

11:00 シンポジウム

「女性のアルコール依存症」

話題提供者 岩原千絵（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター）

座長：村田千里（(株)野村総合研究所）、原井宏明（原井クリニック）

### 昼食休憩 12:00～13:00

### 午後の部 13:00～14:30

一般演題（発表7分 質疑応答3分）

13:00 今井淳司（東京都立松沢病院）

13:10 三瓶舞紀子（国立成育医療研究センター社会医学研究部）・高橋 育絵（原宿カウンセリングセンター）

13:20 富永佳子（新潟薬科大学）

13:30 坂東賢二（和泉市立総合医療センター）

座長：村田千里（(株)野村総合研究所）

製薬企業とのコラボレーションによるMIの勉強について

13:45 川村智行（大阪市立大学）

14:00 原井宏明（原井クリニック）

14:20 大会長 総括

## 基調講演

### ・Motivational Interviewing and Multiple Behavior Change: The Case Example of Alcohol-Exposed Pregnancy Intervention

「あれもこれも変えることを狙った動機づけ面接：妊娠中のアルコール使用に対する介入例」

カレン・インゲルソル (バージニア大学)

一つだけではない複数の行動変化を狙ったMIの事例を提示する。Multiple Behavior Change、多行動変化と呼ばれるものである。最初にこのテーマについての文献を展望し、妊娠中のアルコール使用リスクが高い女性の事例を取り上げて、どのようにかわり、フォーカスし、引きだし、計画するかについて述べる。飲酒と避妊行動を狙ったMIに一致した技術と戦略がハイリスク妊娠の可能性のある女性の行動を変えていく。最後に、多行動変化が他のどのような領域に適用できるかについて紹介する。

## シンポジウム

### ・女性のアルコール依存症

独立行政法人国立病院機構 岩原千絵

女性の飲酒は近年一般的になってきた。しかし女性はアルコールの分解速度が遅く、また体脂肪が多くアルコールが薄まりにくいいため、「アルコールに弱く出来ている」と言える。このため節度ある適度な飲酒量（適性飲酒）は男性の半分～1/3程度とされている。

実際女性は男性よりアルコール性肝障害を起こしやすく、その代表的な疾患である肝硬変は男性より10年以上早く罹患することが知られている。アルコールで傷害されるのは肝臓だけではない。WHOは2007年に口腔・咽頭・喉頭・食道・肝臓・大腸・女性の乳癌の7つの癌を飲酒関連癌と発表したが、1日に摂取する純アルコール量が10g増えると乳癌のリスクは7.1%増える。また更年期以降の女性ではしばしば骨粗鬆症が問題になるが、多量飲酒は骨密度を減少させ骨粗鬆症や骨折の原因となる。さらに妊娠中の女性が飲酒をすると、生まれてくる子に胎児性アルコール・スペクトラム障害（Fetal alcohol spectrum disorders; FASD）と呼ばれる障害が起こることが知られている。このため妊娠中の飲酒は厳禁、可能なら妊娠を意識した時から飲酒は控えたい。

女性のアルコール依存症は近年増加している。女性の依存症は、男性より若く精神科疾患の合併（重複障害）が多い傾向にある。特に摂食障害は11%に合併し、20歳代に限定すると約7割に認められたと言う報告がある。このため女性の治療を行う時には、男性のそれとは違ったアプローチも必要になる。

当日は当院で行われているアルコールリハビリプログラムの紹介や、治療のポイントも交えながら、女性のアルコール依存症について広くお話する予定である。

## 一般演題発表

### ・開かれた質問と閉じられた質問の機能に関する研究

今井淳司 1) 原井宏明 2)

1) 東京都立松沢病院 2) 原井クリニック

【背景】従来、動機づけ面接では、開かれた質問の使用が推奨されてきたが、MITI4において、開かれた質問と閉じられた質問の区別は廃止された。しかし、両者が持つ機能は不明であり、両者の使い分けに関する指針もない。

【目的】開かれた質問と閉じられた質問の機能を明らかにする。

【方法】東京都立松沢病院において開催されたMIワークショップ参加者（計69名）に、特定の話題に関する開かれた質問と閉じられた質問を施行し、それぞれの質問に対して、協働、受容、思いやり、喚起、不協和、正したい反射、回答しやすさ、回答時間、回答の長さ、に関して1～10点で評価をしてもらった。開かれた質問群と閉じられた質問群の2群間で、それぞれの質問への評価点の中央値を、Mann-Whitney U検定により比較した。

【結果・考察】結果は当日に発表し、開かれた質問と閉じられた質問の機能および臨床における使い分けについて考察する。

### ・児童福祉分野における動機づけ面接の普及

三瓶舞紀子 1) 高橋 育絵 2)

1) 国立成育医療研究センター社会医学研究部

2) 原宿カウンセリングセンター

児童虐待通告数及び虐待を理由とした児童の保護は年々増加している。この現状に対し国は児童福祉司の増員や専門性確保等の策を講じているが、虐待死に至った児童の報道が相次ぐなど対応は追い付いていない。総務省が行った児童福祉司への調査では、97%が保護者への支援困難が「ある」と、また68%が「十分な知識やスキルを持たないまま事例を担当せざるを得ない」と回答した。児童福祉司の多くは、複雑な背景をもつ親と関係をつくり行動変容を促すような面接練習の機会もないまま、現場対応を強いられている。

このような中、東京都児童心理司有志が中心となり平成29年1月より動機づけ面接の勉強会を始めた。筆者らMIトレーナーは運営のバックアップと学習を促進するためのコメント、デモンストレーション等に関わってきた。参加者は日々の対応の中で支援が楽になった実感を持ち、参加者も増え、昨年12月には子ども虐待防止学会でシンポジウムを開催した。現場スタッフ中心のトレーニングの場づくりについて、2年にわたる実践を報告する。

・薬局薬剤師の服薬指導において動機づけ面接的アプローチを活かす試み  
—糖尿病患者を対象とした実証的介入研究の試験デザイン—

富永佳子

新潟薬科大学 健康推進連携センター

慶應義塾大学 薬学部

自覚症状を伴わない場合が多い糖尿病患者は、定められた通りの服薬を長期に維持できないことが大きな課題の一つである。服薬したかどうかだけでなく、患者の納得や受容（アドヒアランス）に着目し、個々の特性にあわせた対応が必要とされるが、多くの薬剤師は困難さを感じている。そこで、「服薬アドヒアランスリスク予測ツール」を開発し、動機づけ面接（MI）を活かした服薬指導面談を行うことで、望ましい療養支援を実践するという介入試験を計画した。MI 初心者の薬局薬剤師にも理解しやすいように、具体的な場面での対応例を含めた研修プログラムを策定し、これまで薬局 61 軒から、83 名の薬剤師が参加した。対象患者は 2 型糖尿病、期間は 6 ヶ月以上、評価項目は糖尿病領域負担度スコア、HbA1c、QOL などとし、面談における患者の主たる発話、患者の行動変容ステージ、薬剤師自身の面談内容についても判断するよう規定した。これまでに 22 例（2019 年 1 月）が組み入れられ、追加登録を継続中である。

・小児肥満に対する MI の効果の検討および動機レベルによる分類の試みについて

坂東賢二

和泉市立総合医療センター 小児科

【背景】小児期の肥満に対する MI の効果に対する検討は少ない。当院における小児肥満に対する MI の効果を検討。

【方法】医師 1 名が 1 年間に患児と親に対して MI セッションを 2 回以上行った 61 例を対象とし肥満度の推移を検討。

セッションごとに動機のレベルを①抵抗が強い②時に抵抗する③抵抗はしない④時に自発的発言あり⑤自発的発言が多いの 5 段階とし、さらに A（①or②）、B（③）、C（④or⑤）の 3 群に分類し、肥満度の改善度を比較。

【結果】年齢：7～17 歳（中央値 10 歳）、セッション回数：2～7 回、動機レベルは A 群：8 名、B 群：36 名、C 群：17 名。

肥満度の平均改善度は A 群で 0.38%、B 群：-0.75%、C 群：2.6%。統計学的な有意差はなかったが C 群で改善している傾向があった。

【考察と結語】小児肥満においても MI が有効である可能性が示唆された。動機レベルによる分類は改善の余地はあるものの MI の効果を検討する手段となりうる。

## 製薬企業とのコラボレーションによるMIの勉強について

### ・第一部

川村智行（大阪市立大学）

この発表では、MI研修における企業後援・協賛について、我々の経験をもとに考察してみます。アッビィ社のIBD connectは、炎症性腸疾患の専門医医療者向けのMI研修を行っています。当初、IBD connectは全国規模の2日間のMI研修の形式で始まりました。その後、地方都市で地区の医療者が対象となり、数カ所で1日の研修を行いました。またアッビィ社は、薬剤師向けのMI研修もサポートしています。これも地方都市に地区の病院薬剤師に集まってもらい1日研修を行っています。これらの経費は全面的にアッビィ社が負担しており、研修参加者の参加費は無料で、交通費や宿泊費まで負担され、トレーナーやファシリテーターには、謝金が支給されます。その他にも糖尿病関連企業の後援で1時間から3時間程度の講演や小研修が、散発的に行われてお手伝いさせていただいております。このような研修では参加費は無料となっております。

このように企業から経済的なサポートのあるMI研修には、営利目的にMIが用いられるのではないかと危惧する考えもあります。そして商品や医薬品の販促のために、MIが使われることは、ミラー先生も嫌われることだと思います。

医薬品の関連企業には、それぞれの倫理規程があり、上記のMI研修では、医薬品の販促につながるような内容は含まれておりません。企業は、社会貢献の一環として行っております。そしてこのような研修の対象は医療者であり、目的は医療のレベル向上です。受講者もMIを医療現場でのコミュニケーションに用いることを目的で参加しております。したがって、私個人の考えとしましては、MIを普及する上で、企業の支援を受けたものであっても、MIを営利目的で使われることが危惧されない、医療者を対象に指導するのであれば問題無いのでは無いかと考えます。皆様のご意見もお聞かせいただきたいと思っております。

### ・第二部

原井宏明（原井クリニック）

医師の中でも、一般の中でも医師が製薬企業との間で金銭的な関わりをもつことに疑念の目を向ける人が増えてきました。MIは医療技術の一つです。もし、MIの普及に営利企業が加わることで、MIが特定の薬や商品のプロモーション手段の一つになってしまったとしたら誰でも眉をひそめるでしょう。疑われそうなことには最初から手を出さないのも賢明なやり方です。

一方、抗うつ薬などの治験責任医師の仕事を通じて製薬企業との関わりを長くもってきた演者としては、企業に関わるものには一切手を出さないのももったいないと思えます。企業には企業の倫理観があり、プロモーションについてのガイドラインがあります。

この3年間、関節リウマチの薬を開発・販売している中外製薬と協働して、MIの普及活動をしてきました。ネット上で誰でも無料でアクセスできる学習資料も開発しました。医師と企業の関係について疑念の目を向けてきた方にも、資料自体は評価していただけたと思います。ご案内をさせていただきます。

---

---

MEMO

---

MEMO